

太陽光パネル 骨材に再生

太陽光パネルのリサイクルに対応したよ
ねざわ工業の工場と同社の米沢悟社長



恵庭・よねざわ工業

【恵庭】コンクリートブロック製造販売のよねざわ工業(恵庭)が1日、

太陽光パネルのリサイクル事業に乗り出す。パネルの多くを占めるガラスを自社工場で破碎、選別し、ブロックの骨材に再生する全国でも珍しい取り組み。住宅着工戸数の減少など本業に逆風が吹く中、パネルの再資源化率は95%以上を目指し、新たな収益の柱に育てる。

2011年の東日本大震災後、再生可能エネルギーの普及が進む中で、太陽光パネルが大量設置されてきた。耐用年数は20〜30年で、国内の廃棄量は40年代前半に年間最大50万トに上る見通し。道内でも処理需要の増加が予想されている。

パネルの約6割を占めるガラスの再生処理は手間がかかり費用が高く、業者も少ないため埋め立て処分が主流だ。同社は瓶ガラスを舗装ブロック

製品に再生する技術を持ち、既存事業との親和性が高いと判断した。

同社工場内に、事業者などから回収したパネルを解体して取り出したガラスを破碎、選別する専用機械を新設した。北洋銀行の融資商品「サステナブル経営支援ローン」も活用して資金調達し、設備導入などに約1億4千万円を投じた。

年間で最大約4万5千枚のパネルを処理し、ガラス約300トを利用する計画。処理費用は1キ95円から。金属類は売却し、リサイクルにつなげる。米沢悟社長(47)は「持続可能な地域づくりへ、地元で出た廃棄物を地元で消費する『地産地消』を進めたい」と話す。

同社は1952年創業。恵庭市内に工場を構え、主力のブロック製品は花壇の土留めや玄関までの通路などに使われている。

(加藤遙花)